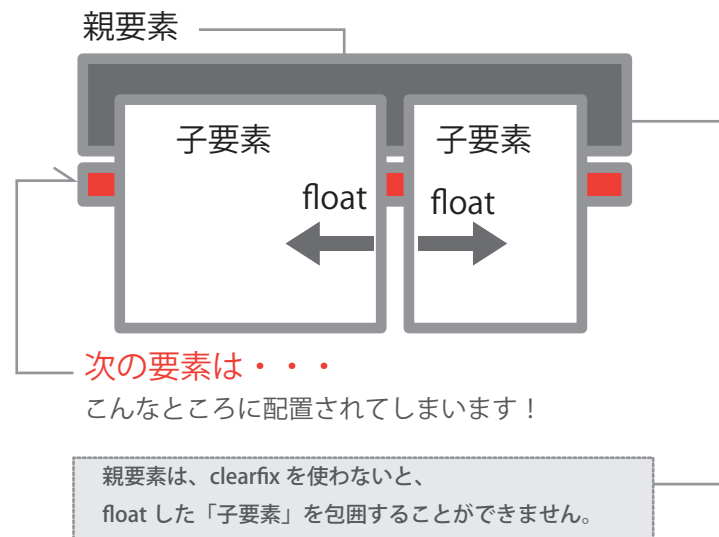


clearfix

clearfix の最新版 - フロート関連やマージン相殺の不具合を解決するモダンブラウザ用

フロートした要素が親要素からはみ出してしまう
親要素の背景が表示されないなどを回避する



要素の直後に疑似内容を挿入し、回り込みを解除させます。

疑似要素

`.clearfix:after` クラスセレクタを用意する。

```
.clearfix:after {  
  content: "";  
  display: block;  
  clear: both;  
}
```

content の値: ダブルクォーテーションのみ
古い Opera のみ空白スペース

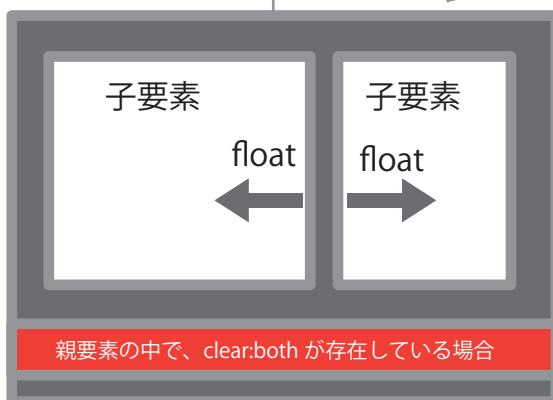
ブロック要素にする。

回り込みを解除する。

float している子要素を包囲する親要素すべてに clearfix が必要です。

#wrap

親要素



使い方

```
<div id="wrap" class="clearfix">
```

親要素にクラスセレクタ clearfix

Memo

`overflow: hidden;` (clearfix と同じ効果が得られます)

親要素の overflow プロパティの値に visible 以外のものを指定すると、親要素は、float された子要素の高さを認識するようになるため、「class="clearfix"」を使った時と同じ効果が得られます。overflow プロパティに入れる値を auto や scroll にしても同じですが、ブラウザによってはスクロールバーが出てしまうなどの現象が起こるため、「overflow: hidden;」を入れるのが一般的です。